

# 斑点米カメムシ情報第1号

平成24年7月2日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 1 発生状況

斑点米カメムシ類は、イネ科雑草などに寄生したものが水田に侵入します（図1、2）。6月下旬の巡回調査（県内102ほ場）において、水田周辺の畦畔における捕虫網20回振りによる斑点米カメムシ類の捕獲数は5.66頭（平年5.43頭）と平年並の状況です。また、予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数も平年並の状況で推移しています（図3）。

ミナミアオカメムシは6月下旬の巡回調査において、一部地域の水田畦畔で捕獲されました。また、収穫後のコムギほ場内のタデ類や畦畔のイタリアンライグラスで幼虫の発生を確認しています。他の斑点米カメムシ類と同様、水稻が出穂すると成虫が水田へ侵入して加害を始めるので注意しましょう。

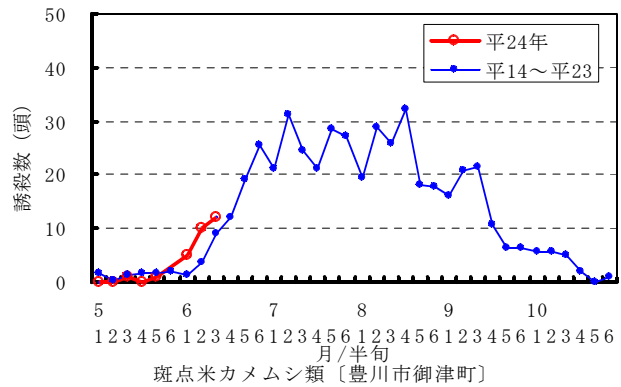


図1 ホソハリカメムシ成虫

図2 ミナミアオカメムシ幼虫

図3 予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数

## 2 防除対策

カメムシ類は水田周辺の畦畔や土手などのイネ科雑草で増殖するので、畦畔や土手の除草に努めましょう。しかし、出穂期間際の除草は逆にカメムシ類を水田に追い込むことになるので控えてください。なお、水田内で穂をつけたヒエ類は、カメムシ類の発生を助長するので除去しましょう。また、ミナミアオカメムシは、コムギ収穫後のほ場で、ほ場内に生えているタデ類を餌にして幼虫が成育しているので、速やかに除草を行いましょう。

出穂期に畦畔雑草や水田内でカメムシ類を確認したら、穂揃期に薬剤防除（表）を実施し、その後も発生が多い場合は7～10日後に再度防除を実施してください。

表 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名
トレボンEW
スミチオン乳剤
キラップ粒剤
キラップフロアブル
ダントツ粒剤
スタークル粒剤、アルバリン粒剤
スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

農薬の散布にあたっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。